

氏 名 : 山本 浩二
専攻分野の名称 : 博士 (教育学)
学位記番号 : 博乙第 98 号
学位授与年月日 : 平成 31 年 3 月 15 日
学位授与の要件 : 学位規則第 4 条第 2 項該当 論文博士
学位論文名 : 日本の中学校保健教育におけるヘルスリテラシー育成の概念構造とカリキュラムに関する研究
論文審査委員 : (主査) 教授 渡邊 正樹
(副査) 教授 鈴木 明哲 教授 高橋 浩之
准教授 林 尚示 教授 戸部 秀之

学位論文要旨

本研究の目的は、日本の中学生に必要なヘルスリテラシーの概念構造を明らかにし、中学校保健教育においてヘルスリテラシーの育成を目的とした授業及びカリキュラムを開発することである。ヘルスリテラシーとは、1990 年健康教育用語に関する合同委員会(the joint committee on health education terminology)において、「基本的な健康情報や健康サービスを知り、それを解釈・理解することのできる能力であり、また健康状態を高めるように情報やサービスを活用できる能力」と定義されている。

日本の青少年を取り巻く健康課題は、著しい社会構造の変化に伴い年々多様化している。生活習慣病予備軍の低年齢化、運動習慣の 2 極化、心の健康問題、アレルギー疾患、氾濫する健康情報等の健康課題に対応するためには、日本の学校教育において、健康や安全に関する知識を理解するだけでなく、その知識や情報を活用するために思考、判断し、協働的な活動を通じて自他の健康を維持、改善できる能力の育成が求められている。平成 29 年 4 月告示の学習指導要領では、中学校保健分野において育成すべき、思考力・判断力・表現力等として健康に関する課題解決力と健康情報の活用力が重視された。この 2 つの力とヘルスリテラシーの概念には共通する点が多い。さらにヘルスリテラシーは、中学校保健教育における見方・考え方を明確にする理論的な概念や原則となり、ヘルスリテラシーの視点から保健教育の学習内容やカリキュラムを検討することには意義がある。

第一章：健康情報リテラシーを育てる中学校保健授業の開発と評価

本章の目的は、中学生を対象とした健康情報リテラシーを育てる保健授業を開発することである。国立大学附属中学校 1 年生を対象に、2 クラス 80 名ずつ介入群、対照群とした。介入群では「健康情報を正しく選択する方法」の授業を実施し、学習教材として「健康情報評価カード」を開発し使用した。授業評価には、「健康情報の批判的思考尺度」を開発し用いた。その結果、介入群では授業前に比して授業後の「健康情報の批判的思考尺度」得点が高まった。また、介入群では、対照群に比して尺度得点の上昇が見られた。

第二章：健康情報リテラシーを育てる中学校保健授業の効果に関する縦断的研究

本章の目的は、中学生を対象とした健康情報リテラシーを育てる保健授業の効果を縦断的に追跡調査することである。国立大学附属中学校の生徒を対象に、1年2学期と約1年後の2年2学期に健康情報リテラシーの授業を実施した。そして、授業効果を測定する尺度として、「健康情報の批判的思考尺度」を用い、2回の授業前後計4回の尺度調査を実施した。その結果、第1回目の授業前に比して授業後に上昇した尺度得点は、1年後には低下したが、第2回目の授業後には、さらに上昇し、計4回の中で最も高い尺度得点となった。健康情報リテラシーを育てる授業は、約1年の間隔が開いても、2度実施することによりフォローアップの効果があることが認められた。

第三章：中学生用包括的ヘルスリテラシー尺度の開発

本章の目的は、日本の中学生に必要なヘルスリテラシーの構造を検討し、中学生用包括的ヘルスリテラシー尺度を開発することである。中学生のヘルスリテラシーを測定する質問紙調査項目を作成し、国立大学附属中学校1年生159名に実施した。因子分析の結果、5因子35項目が抽出され、因子1「健康管理思考力」、因子2「生活習慣改善力」、因子3「健康情報リテラシー」、因子4「ヘルスコミュニケーション」、因子5「アサーション」と命名した。作成したヘルスリテラシー尺度を用い、中学生1年～3年460名を対象にヘルスリテラシー尺度得点と保健学習知識得点及び生活習慣得点との関連を調査した。その結果、ヘルスリテラシー尺度得点と保健学習調査得点及び生活習慣得点それぞれに弱い相関が認められた。またヘルスリテラシー尺度得点と生活習慣得点との関連には、学年別に異なる傾向が見られた。

第四章：中学校保健教育におけるヘルスリテラシーの概念構造とカリキュラムの検討

本章では、中学校保健教育におけるヘルスリテラシーの概念構造を、5因子3構造からなる概念構造図により、それぞれの因子の関連性を示した。次にこの概念構造を用い、平成29年3月告示の学習指導要領における中学校3年間の保健授業カリキュラムを提案した。学年ごとに配置された小單元ごとに、関連しているヘルスリテラシーの因子を示し、ヘルスリテラシーの視点から、学習内容と学習教材を示した。

第五章：本研究の総括

本研究の目的は、日本の保健教育におけるヘルスリテラシーの育成の必要性について論じ、中学生に育成すべきヘルスリテラシーの概念構造を明らかにすることであった。その結果、健康情報リテラシーを土台とした5因子3構造からなる概念構造を提案することができた。このヘルスリテラシーの概念構造を用いることにより、平成29年3月告示学習指導要領中学校保健分野における授業やカリキュラムを、ヘルスリテラシーの視点から構想できる可能性が示唆された。